

値上げの春

今年は例年よりも桜の開花が早く早い春の訪れとなりました。いつもこの時期に思いますが、桜は季節をよく知っていますよね！地域の木と木が申し合わせたかのように一斉に花を咲かせ一斉に散る。人間であれば、もし、時計やカレンダー、テレビなどのメディアが無く、季節の変わり目を感覚だけでここまでは表現出来ないはず。自然の持つ神秘にはいつも感心します。

昨年12月に政権が交代してから株高・円安が止まりません。3月半ばから少し落ち着きかけていたのですが、日銀の黒田新総裁が打ち出した大胆な金融緩和は「バズーカ砲炸裂」という新聞記事もでるほど市場には大きなインパクトだったようです。安倍首相が打ち出した経済政策「アベノミクス」の一本目の矢、「大胆な金融緩和」は出だしは快調のようです。

しかし、物事には賛否両論あり、黒田日銀が打ち出した金融政策について危うさを指摘する声もあります。日本の国債が暴落するとか過度な円安進行、金利の急上昇、さらにはハイパーインフレ等々……。しかし、20年にも及ぶデフレから脱却するには従来の手法ではダメなのは周知の事実であり、現に今回の政策を市場が歓迎し、大幅な株高になっています。確かに異次元の世界に行くには不安もありますが、閉塞感からの脱却には時には大胆さも必要だと思いますので、当面は黒田日銀の政策を支持し見守りたいと個人的には思っています。

昨年11月の解散前は1ドル70円台後半だった為替レートは現状1ドル90円台後半なので、約-20円、率にして約25%もの円安に振れた為替については、輸入関連など業種によってはデメリットになる業種もあり、さらには家計にとっては負担が増し、直接的には万人がメリットとはいえなくもありません。円安だけの要因ではありませんが、円安が値上げに拍車をかけた影響により、この4月以後、小麦粉の政府売り渡し価格平均+9.7%、一般食用油約+10%、その影響でシーチキンは2.2%~6.1%値上げされます。トイレットペーパーやティッシュペーパーは約+10%~15%、さらに輸入に頼る燃料費の高騰で電気代(関西電力は平均+9.75%)・ガス代などの燃料費も順次値上げされます。食料品や電気代の約+10%は来春予定されている消費税の引き上げ幅+3%どころの騒ぎではなく、家計を大きく直撃します。

一方、高級時計やブランド物などの海外物も円安の影響で10%前後値上がりします。これらは一般家計には直接影響を受けないと思われそうですが、株高の影響で逆によく売れているそうです。株高は個人資産の含み益を増やしますので高額消費にとっては追い風となります。さらには企業や年金基金、金融機関の含み益が増大し、株をやっていない方も間接的に恩恵を受けます。それに、景気の「景」は景色、「気」は気分、と考えれば、景況感が増大することは経済にとってはなにより大きなプラスになります。

しかし、安倍首相はアベノミクスの副作用が先行していることを危惧し、企業に賃金の引き上げを要求しています。円安による企業業績の改善が給料や個人所得の上昇につながり、物価高に追いつけないようであれば家計負担が増すだけで、来春予定されている消費税の引き上げが更に消費を抑制し景気を冷やすこととなります。アベノミクスの期待先行による株高が、さらに給料や所得上昇につながり、好循環が持続可能となるかが最も注目されるようです。

ところで、今から5年前の4月にも小麦粉などの食料品が一斉に値上げされたことがありました。そのときに私がひいきにしているお好み焼き屋さんのご主人が散々思案された上でお昼の定食を10円値上げされました(その後は元の値段に戻されて650円になっていますが)。小麦粉、食用油、ガス代、お好み焼き屋さんにとっては今回の値上げは経営に大きく影響するものばかりです。特にお昼の定食はお客様は価格には敏感ですので、10円、20円の値上げは飲食店にとっては苦渋の決断が必要になるようです。

私は前回値上げの際相談を受けて、「もともと安い上に、今までどおり美味しいものを提供してくれるのであれば、きっとお客さんも理解してくれますよ」と申し上げました。事実10円の値上げで出向く回数が減るとか他所へ変わるとかは無いと思うのですが、それだけ神経質になっているご主人には同情するとともに、当時の景況感を現しているなあと改めて思い出しました。さて今回はどうされるのか？「10円、20円位の値上げだったらお客さんは他所には行きませんよ」と言えますが、50円の値上げだったら「うーん……」となるかも……。